

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	池田 雅明
主な担当科目	コンテンポラリーミュージック・スタディ特別演習①, コンテンポラリーミュージック・スタディ特別演習②, ジャズ & コンテンポラリーアンサンブル特別演習Ⅰ①②, ジャズ & コンテンポラリーアンサンブル特別演習Ⅱ①②, ジャズアンサンブルⅠ①②(月曜3限), ジャズアンサンブルⅠ③④(月曜4限), ジャズアンサンブルⅡ①②③(木曜2限), ジャズアンサンブルⅡ③④(木曜3限), ジャズコンボ①②, ジャズの歴史と作品, ジャズビッグバンド①②, ジャズ演奏法④, ポピュラー作曲・編曲法②(水曜3限), ライブパフォーマンスⅠ, ライブパフォーマンスⅠ①, ライブパフォーマンスⅡ/Ⅱ①, ライブ実習Ⅰ①, ライブ実習Ⅰ②, ライブ実習Ⅱ/Ⅱ①②, 海外研修ⅠⅡⅣⅤ, 合奏Ⅲ①②, 卒業ライブ, 副科グループレッスン(火11:15-12:00), 副科グループレッスン(火20:30-21:15), インストⅠ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	講義科目(ジャズの歴史と作品)のメディア授業化に向け動画内容を検討し作成する。開講2年目となるジャズ & コンテンポラリーミュージック大学院の更なる授業内容拡充を目指し、初の論文指導にも力を入れる。海外大学からのジャズ系ワークショップの受け入れや中国系音楽塾との更なる連携、また5月末に予定されているNWSG主催Partyにて日豪ジャズ文化交流を含めた成果を発揮し成功させる。顧問を務めるLily Jazz Orchestraのコンテスト用指導と更なる学外宣伝に力を入れる。
2024年の教育に関する自己評価	「ジャズの歴史と作品」のメディア授業化を完結させたが、コンテンツの見せ方にはまだ修正の余地がある。来年度に向けて更なるスリム化を目指す。ジャズ & コンテンポラリー大学院の特別集中講義に学内外から新たな招聘講師をお呼びし、授業内容の拡充を図った。ミシガン州立大学ジャズコースとの合同ワークショップの成功、東京光音楽塾との更なる連携強化、及び、NWSG Partyに於ける日豪合同 Big Bandの成果を発表、成功させることが出来た。顧問を務めるLily Jazz Orchestraの山野ビッグバンドコンテストでは昨年に引き続き、第2位を獲得出来た。
2024年のFD活動に関する自己評価	大学主催のFD研修会には全て出席し、本学に於ける今後の運営方針、様々な学生への対応法を含め、再考する良い機会となった。特に9月のFD分科会ではファシリテーターを務め、グループ内の意見を円滑に取りまとめた。更に部会における各楽器ごとのFDでは各講師からの貴重なご意見に共感する部分も多く、来年度のコース運営としても、より良き授業展開に繋げる策を講じて行きたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	本学ならではのブランディングを考え、ジャズ・ポピュラー音楽のみならずジャンルの壁を超えた指導法を模索した。多数の留学生を含む多様な学生への対応について、更に個々へ向き合うための様々な方法を考え、実践した。各楽器ごとの講師より寄せられた意見をもとに、特にレッスン室の設備やレイアウトについて改善を行った。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2327 教員名:池田 雅明

1)アンケート結果に対する所見

開講 5 年目となる「ジャズの歴史と作品」に於いては内容を更にスリム化し、トピック毎のファイルを Teams 上にアップ、それに沿った演奏家紹介を実際の動画と共に説明する方式により、概ねジャズに対して新しい発見と興味を持てたとの評価をいただいた。

ポピュラー作編曲法等の理論系授業では、出来るだけ今の音楽ニーズを捉えるべく、学生からの楽曲提供による学生自身のアナライズによる答えを誘導する授業法を実施して好評を得ていたが、今年度の新入生からは難易度が若干高かったというご指摘もいただいた。

実技系アンサンブル授業に関しては、理論系授業に比べてジャズ、ポピュラー系共に学生とのコミュニケーションが図りやすい為、レベルに合った細かな指導や、様々な講師が登壇して状況に応じたセッションを行う方式が学生への満足度に繋がっていると思われる。

2)要望への対応・改善方策

ポピュラー音楽理論「コードプログレッションベーシック」授業に対して、昨年度担当した A(上級)クラスでは授業難易度を下げて欲しいとのフィードバックをいただいた。これはそもそもこのクラスには今までいなかった中級レベルの学生が増えた事が原因と思われるが、他にも現在新入生に対して行われているプレイスメントテストによるクラス分け(3クラス A,B,C)の人数配分が均等になっている事や、新入生全体の音楽理論知識レベルが下がっていることにも起因すると思われる。この対策として、来年度以降は C クラスのレベルに相当するプライマリークラス数を大幅に拡充し、各学生のレベルに合ったクラス分けの実施に努めたい。

「ジャズの歴史と作品」に対しては出席率の問題や出欠方法に関してご指摘をいただいたが、こちらは開講時限が1限だったということもあり、来年度にはメディア授業とすることで解決を図りたい。

3)今後の課題

「ジャズアンサンブルⅠ」(ビッグバンド)に於いては選曲の偏りに留意し、特に初級クラスではトラディショナルな楽曲にも重きをおきたい。「ジャズアンサンブルⅡ」(ジャズコンボ)に於いては学年別ではなく、レベルによるクラス分けを切望されているので、来年度のセメスター制に合わせ、解決策を模索していきたい。

以 上